

「イエスを見るために」井上隆晶牧師

創世記3章8～13節、ルカによる福音書19章1～10節

①【イエス様を見ようとしたザアカイ】

エリコという名の町にザアカイという徴税人がいました。徴税人は税金を取る仕事をしている人です。ユダヤ人から嫌われ、罪人と言われ、仲間に入れてもらえませんでした。ザアカイはそんな徴税人の頭で金持ちでした。このザアカイが「イエス様がどんな人か見ようとした」というのです。お金があっても、社会的地位が高くても、それだけでは彼の心が満たされなかったのです。人が本当に満たされるのは愛されることであり、受け入れられ、認められることです。

●私がまだ牧師になりたての頃、教会の男性の信者さんの葬式をしました。私は葬式に慣れておらず、緊張し、ものすごく疲れました。説教の後、尊敬するK牧師が私の所に来て「井上君、君のような説教が出来る人を見たことがないよ。良い話だった」と褒めてくれたのです。その一言で私は「ああ、恩師に認められた」と思い嬉しくなりました。認められるってとても大事なことです。

ザアカイは、自分と同じ徴税人を弟子にした人がいるという噂を聞き、イエス様に会ってみたいとなったのです。しかしザアカイはイエス様を見ようとしたが「背が低かった」(19:3)ので群集に遮られて見る事が出来ませんでした。そこでイエス様を見るために、走って行って先回りし、いちじく桑の木に登り、イエス様を見たのです。そんなザアカイをイエス様は喜び、彼の家に入り友達になって下さいました。ザアカイの背の低さは、私たちの能力の低さを象徴しています。しかし彼の強い願望は、能力の低さを克服したのです。私たちはさまざまな言い訳をして(仕事が忙しいから、誰々が来るから、体が弱いから)、キリストを求めようとしません。しかしもしあなたが本気になってキリストを求めるなら、あなたは傷害を乗り越え、キリストはすぐにも来てくださるでしょう。

②【回心とは=この世ではなく、キリストを見ること】

この物語には「見ようとした」「見るができなかった」(3節)「見るために」(4節)「上を見上げて」(5節)「これを見た人たちは」(7節)と「見る」という言葉が5回も繰り返されています。この物語は「見る」ことがテーマです。人間の五感「視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚」はもともと神を知り、神と交わるための道具として造られました。しかしそれは神に向けられるのではなく、この世に向けられたのです。創世記のエデンの園の箇所「女が見ると、その木はいかにもおいしそう、目を引き付け」(創世記3:6)と書かれています。その木とは善悪の知識の木であり、神が「食べると必ず死んでしまう」(創世記2:17)と、食べることを禁じた木です。この善悪の知識の木とは神を抜きにしたこの世の象徴です。この世は神よりも魅力的に見え、私たちの目を引き付けます。この世は

私たちが喜ばせ、この世の中に命があると思わせます。最初の墮落とは神を見ることをやめ、この世を見ることを選んだということなのです。そうやって人は、神ではなく、この世を貪欲に求め始めました。ザアカイの物語を読むと、エデンの園のアダムを思い出します。その昔アダムは神の顔を避けて、園の木の中に隠れましたが、ザアカイはその神の顔を見るために木に登りました。ザアカイの目はこの世にではなく、キリストに引き付けられています。キリストを見るためになりふり構わず必死になっています。ここに命の回復の始まりを見ます。教会に帰ると私たちの五感が神に向かって正しくリセットされます。教会で祈祷し、祭壇の前に立つと、人に戻った感覚になるのです。

私たちは「食べると必ず死んでしまう」（創世記2：17）という言葉、軽く聞いています。誰も本気で読んでいません。アダムと同じように、この世を求めたくらいでは私たちは死なないと思っています。この言葉を本気で聞かない人は、他の聖書の言葉も本気で聞きません。キリストが「私が復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていて私を信じる者はだれも、決して死なない。」（ヨハネ11：25）と言われても、何となくそうかな〜くらいで、喜びがないのです。本気で聖書の言葉を聞くとき、それは私たちに命を与えるのです。キリストが命なのです。この世には命はありません。キリストを見つめ、キリストを貪欲に求めましょう。

③【私は、本当は美しい】

イエス様はいちじく桑の木の下まで来ると上を見上げて言われました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」（19：5）イエス様は彼の名を知っただけでなく、彼が罪人と知っておられながら彼との交わりを強く求められました。ザアカイは自分がイエス様を求める以上に、イエス様の方が自分を求めていたことを知りました。神の思いを知り、神の心に気づく、これが実は回心であり、信仰なんです。彼は急いで木から降りてきて、喜んでイエス様を家に迎え入れました。ザアカイは立ち上がり「私は、財産の半分を貧しい人に施します。また、誰かから、何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」（8節）と言いました。それほどにイエス様との出会いは彼を満たしてしまいました。ザアカイは変わったのです。

イエス様は言われます。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」（9～10節）「失われたもの」とは、ある物が本来あるべき所から離れ、間違った所に置かれている状態をいいます。人は本来神の側で生きるように創造されました。ですから、そこに帰ることを救いといえます。イエス様は「この人もアブラハムの子なのだ」と言われました。この人も神の子だといわれたのです。

●先日、某銀行に行ったら私の隣にかなり高齢のおばあさんが座り、銀行員にこう言うのです。「もうここに来るのもこれで最後やな。ホームに入らなあかん。もうしんど

「くたれへん。兄ちゃん、ここで計算して。向こうの席まで行かれへん。」そこで若い男性の銀行員は、おばあさんに合わせてそこで計算してくれました。何か、この世の本当の姿を見たような気がしました。

人はみんな歳をとったら、同じようになるのです。足が動かず、心臓が苦しくて動けなくなるのです。病気が人生のすべてというような日々がやってくるのです。でも本当にそうでしょうか。私はそうは思いません。罪も死も病気も私たちの本性ではありません。後から身に着いた習性のようなものです。人の犯す罪は、神が創造されたものを歪ませることはできても、破壊することは決して出来ません。神の恵みはそれほど大きいのです。病気もそうです。どんなに病気になっても、それがすべてではなく、輝くものを持っていたいのです。私の中には神の創られたダイヤモンドのような美しい神の像があるのです。「罪は私の一部であって全てではない、私は本当は美しいのだ」と言いましょう。その神の像を開花させ、復活させてくださるのが神キリストなのです。神でなければそれは開かないのです。もし皆さんがキリストに期待し、キリストの力を本気で信じるならば、主は必ず、私たちの中の美しい神の似姿を開花させ、主に似た者に変容させてくださるでしょう。